

研究題目

眼球の伸長が視覚機能に与える影響に関する研究

研究責任者名 医系科学研究科視覚病態学 教授 氏名 木内 良明

研究期間

2013年10月15日（倫理委員会承認日）～2027年3月31日

対象者

平成15年（2003年）4月1日から令和8年（2026年）3月31日の間に、広島大学病院眼

科を緑内障疾患で受診し、一般的眼科検査を受けた20歳以上の患者を対象とします。

意義・目的

近視は、主に眼球が後ろ側に伸びること（眼軸長の伸長）で進行してきます。この眼軸長の伸長により、眼底の神経や血管が変化することが分かっています。日本は世界で最も近視の多い国ですが、この成長による眼底の変化は今まで調査されていません。光干渉断層計（OCT）は、弱い光を当てただけで眼底の構造を画像化できる機械です。コルピス(Corvis ST)は角膜の粘弾性の性質を測定できる機械です。眼軸長の伸長による眼底の変化は、近視の進行だけではなく、緑内障や網膜剥離などの発症にも関係することが分かってきました。そのため、成長期に眼底がどのように変化するのかを調べることで、近視および病気の発症予防に役立てようと考えています。

方法

本研究は全て診療録（カルテ）情報を転記し解析します。カルテから転記する内容は眼疾患名、年齢、性別、眼所見、視力、屈折率、角膜曲率、眼軸長、前房深さ、角膜中央厚、眼圧